

# 「理想の最期」実現

## 施設で葬儀 入居の決め手に

介護付有料老人ホームを7拠点運営する一般財団法人日本老人福祉財団(東京都中央区)は、入居者が自立時から最期まで安心して過ごせるよう、全事業所においてエンディングサービスを提供している。

### 一般財団法人日本老人福祉財団



「ゆずりの里」課長 木下 悠太郎 氏

同法人では各施設に葬儀担当者を2〜3名配置。希望入居者に対して事前にヒアリング

し、本人が望むエンディングをサポートしている。その内容は、棺に入れてほしいもの、遺影にしてほしい写真、葬儀でかけてほしい音楽、亡くなった際に連絡してほしい人など様々。理想の葬儀の在り方や死後の不安事について確認し合う。万が一の時には、担当者が家族・葬儀会社に故人の希望を伝える。なかには、同法人が「生活事務委任」を担う入居者もあり、この場合は「もしもノート」を提供。葬儀や納骨など、死後に対する希望を記載してもらう。「自立時から入居する方がほとんどで、『人に迷惑をかけず、できることは自分でやりたい』という思いが

強い入居者が多いので、執り行ったという。葬儀には、入居者も参列。施設内で葬儀を執り行うことで、「私もこのように式にしてほしい」と自身の最期について考えるきっかけになっている。「残された方にも『いい葬儀だった』と思っても構いません。施設で

### 共同墓地も所有



▲共同墓地への「墓参会」の様子

の葬儀は、職員が家族と対話できる場でもあります。最期の様子などを伝えたり、思い出を語ったりすることで、グリーフケアにつながります。(小辰氏) また、同法人は全国2ヵ所(富士霊園・神戸聖地霊園)に共同墓地を所有し、年々回は必ず墓参りを実施。コロナ禍前は法人がバスを用意し、職員や入居者、遺族共に墓参りをしてきたという。

「葬儀はケアの集大成。職員にとって、今までのケア・これからのケアを考えるきっかけとなります。元気な時を知っているからこそ、その人らしいお見送りをしたいです」(小辰氏)。